

この冬のまとめ

目次

1. 今冬の気圧配置・気温・降雪量などの傾向
2. 青森県のこの冬の各月の天候経過
3. 青森県のこの冬の月平均気温
4. 青森県のこの冬の降雪の深さの合計値と最深積雪
5. 青森県のこの冬の主な地点の積雪と降雪の深さの経過
6. 青森県のこの冬の大雪警報の発表状況
7. 年末年始の日本海側を中心とした大雪について

1. 今冬の気圧配置・気温・降雪量などの傾向

1.1. 気圧配置の特徴

12月後半から、日本付近で偏西風が南に蛇行して、千島付近に極渦から切り離された寒冷渦がとどまりやすく、寒冷渦に対応して千島近海からアリューシャン近海にかけて低気圧が発達しやすかった。一方、東シベリアから中国東北区付近にかけて中心に高気圧が優勢だった。このため、冬型の気圧配置は東・西日本を中心に総じて強かったが、本州付近を高気圧がたびたび通過して、強弱を繰り返した。

1.2. 気温

気温は、12月下旬以降に強い寒気の影響を受けた東・西日本で低くなり、東北地方も平年に比べて低くなった。北海道と沖縄は平年並みの気温となった。

冬の期間の気温経過図(図1-1)のように、青森県を含む北日本は、12月前半は暖かく経過したが、12月下旬から1月上旬にかけて、気温は低く経過した。

1.3. 降水量・日照時間

降水量と日照時間は、北日本では、12月下旬以降、冬型の気圧配置が強まることも多く、日本海側を中心に記録的な大雪となった所もあったが、低気圧や高気圧が通過して冬型の気圧配置が解消する時期もあり、北海道を中心に晴れた日があった。このため、北日本日本海側は降水量がかなり多い一方で、北日本の日照時間は多くなった。東・西日本は、12月下旬以降、断続的に強い冬型の気圧配置となり、北陸地方から山陰地方にかけての日本海側を中心に記録的な大雪となった所もあった。西日本は、平年に比べ低気圧の影響を受けにくく、日本海側・太平洋側ともに、降水量はかなり少なく、日照時間は多くなった。

東北地方でも、日本海側で降水量が平年よりかなり多かったが、低気圧や高気圧が通過して冬型の気圧配置が解消する時期に晴れた日があったため、日本海側の日照時間は平年並

みであった。

1.4. 降雪量

日本海側の冬の降雪量は、12月下旬以降の冬型の気圧配置の強まりのほか、低気圧の影響も受けやすかった北日本日本海側が多かった。東・西日本日本海側では平年並だったが、たびたび強い寒気が流入したため、新潟県津南で2月24日に419cmの積雪を記録したほか、全国331地点中12地点で最深積雪の記録を更新するなど、北・東・西日本の日本海側を中心に、記録的な大雪となった所もあった。

東北地方の日本海側の降雪量も平年に比べて多かった。青森県内でも、野辺地で2月17日に115cmの積雪を記録し、年間の最深積雪の記録を更新した。

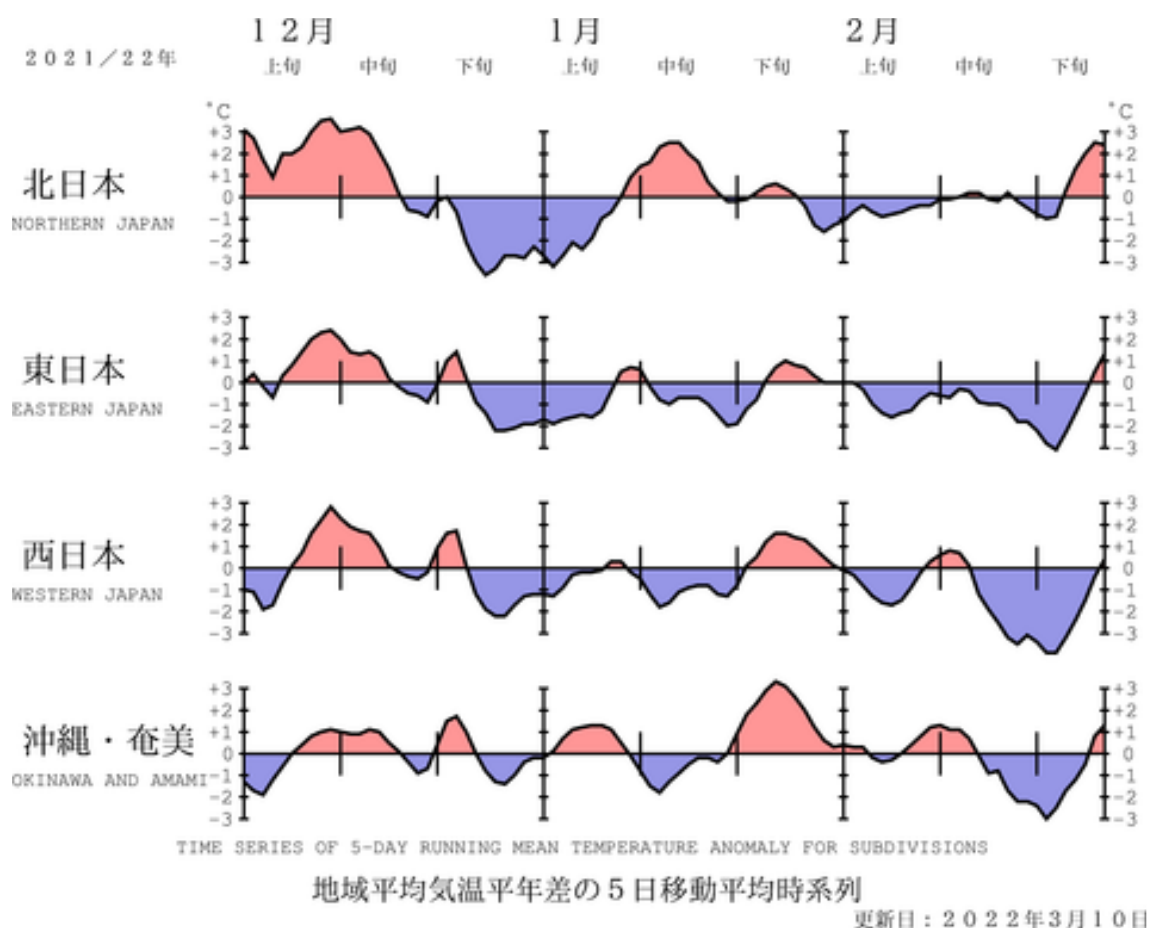


図1-1 地域平均気温平年差の5日移動平均時系列（2020年12月～2021年2月）

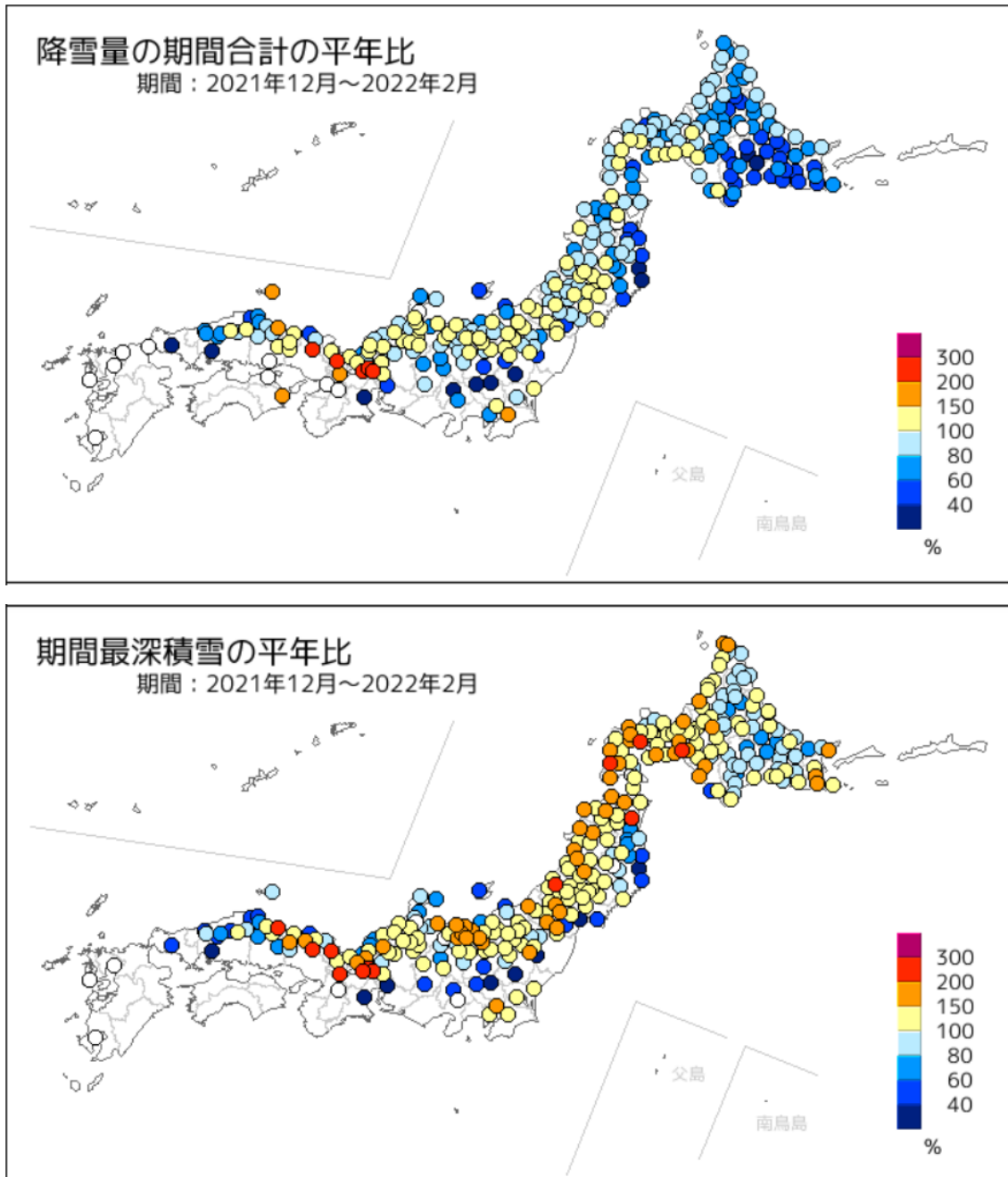


図1-2 2022年冬（2021年12月～2022年2月）の累積降雪量と最深積雪
（上図：累積降雪量年平均比、下図：最深積雪年平均比）

この冬（12～2月）の天候の詳細については、以下の資料をご覧ください。

冬の天候：https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/stat/tenko2022djf_besshi.pdf

2. 青森県のこの冬の各月の天候経過

11月は、低気圧や前線の影響を受け、曇りや雨の日が多かったが、高気圧に覆われて晴れる日もあった。下旬に冬型の気圧配置が続きみぞれが降ったが、期間を通して暖かい空気が流れ込みやすく、県内では気温がかなり高かった。また、2日から3日にかけては、低気圧が日本海北部でほとんど停滞した影響により下北と三八上北で大雨となった。

なお、青森では17日に初霜と初氷を観測（平年は初霜11月1日、初氷11月10日）、23日に初雪を観測した（平年は11月8日）。

平均気温は平年よりかなり高かった。降水量は概ね平年より多かった。日照時間は津軽で平年並または多く、下北と三八上北で平年並または少なかった。降雪量は津軽で平年並の所があったが、概ね平年より少なかった。最深積雪は津軽で平年より多い所があったが、概ね平年より少なかった。

12月は、冬型の気圧配置と前線の影響で雪や雨の降る日が多かった。期間の前半は高気圧に覆われ晴れる日が多く、気温が平年より高かった。一方、後半は冬型の気圧配置が続いたため降雪量は多くなり、気温が平年より低かった。特に、18日と27日は冬型の気圧配置が強まり、上空の強い寒気の影響により大雪となる所があった。

平均気温は平年並だった。降水量は平年並または多く、かなり多い所もあった。日照時間は平年並または少なく、かなり少ない所もあった。降雪量と最深積雪は平年並または多く、かなり多い所もあった。

1月は、冬型の気圧配置が続き、雪の降る日が多かった。7日は東北地方を低気圧が通過し、その後強い冬型の気圧配置となったため大雪の所があった。27日から28日にかけては、日本海北部から三陸沖に進む低気圧の影響により、津軽で大雪の所があった。また、12日は、日本海北部と北海道付近の発達する低気圧の影響により、津軽と三八上北では大荒れの天気となった。平均気温は概ね平年並だった。降水量は平年並または多く、津軽でかなり多い所もあった。日照時間は平年並または多く、かなり多い所もあった。降雪量は平年並または多かった。最深積雪は平年より多く、かなり多い所もあった。

2月は、冬型の気圧配置と低気圧の影響により雪の日が多かったが、期間の中ごろは高気圧に覆われ晴れる日があった。平均気温は平年並または低かった。降水量は平年並または少なく、津軽と三八上北でかなり少ない所もあった。日照時間は概ね平年並だった。降雪量は平年並または少なく、かなり少ない所もあった。最深積雪は平年より多く、かなり多い所もあった。

3月は、低気圧と高気圧の影響を交互に受け、天気は数日の周期で変化した。6日から7日にかけてと20日は一時的に冬型の気圧配置となり雪の日があったが、寒気の影響が弱か

ったため気温は高めで推移した。平均気温は平年より高かった。降水量は平年並または多かった。日照時間は平年並または多く、津軽と三八上北でかなり多い所もあった。降雪量は平年より少なく、津軽でかなり少ない所もあった。最深積雪は平年並または多かった。

各月の経過等の詳細は、「月の天候のまとめ」をご覧ください。

月の天候のまとめ :

https://www.data.jma.go.jp/aomori/pub-relations/weather_summary.html

3. 青森県内のこの冬の月平均気温

2020年11月から2021年3月の月平均気温、月平均気温の平年差等を次ページ以降に示す。

【留意事項】

- 平年値は1981年～2010年の30年間の平均値。
- 日別値等、更に詳しいデータを必要とされる場合は、
気象庁・気象統計情報(<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>)をご覧ください。
- データに付加する記号の意味
値)：準正常値、統計値を求める対象となる資料の一部が欠けているが許容する資料数を満たす値
値]：資料不足値、統計値を求める対象となる資料が許容する資料数に満たない値
×：資料なし
//：平年値なし

11月の月平均気温

暖かい空気が流れ込みやすく、青森県内では気温が平年よりかなり高かった。

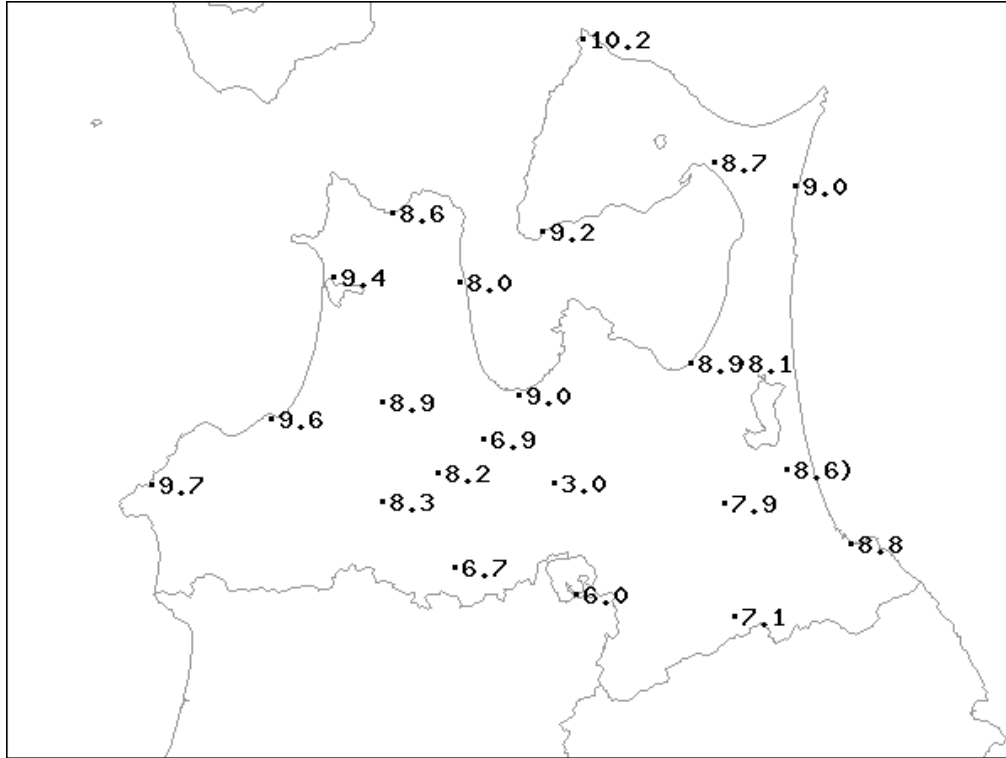


図 3-1 青森県内の 2021 年 11 月の月平均気温

表 3-1 青森県内の 2021 年 11 月の月平均気温

地点名	実況値	平年値	平年差
大間	10.2	8.0	+2.2
むつ	8.7	6.8	+1.9
小田野沢	9.0	6.8	+2.2
今別	8.6	7.0	+1.6
脇野沢	9.2	7.3	+1.9
市浦	9.4	7.2	+2.2
蟹田	8.0	6.2	+1.8
五所川原	8.9	6.9	+2.0
青森	9.0	7.2	+1.8
野辺地	8.9	7.3	+1.6
六ヶ所	8.1	6.5	+1.6
鱒ヶ沢	9.6	7.6	+2.0
青森大谷	6.9	5.5	+1.4
深浦	9.7	7.9	+1.8
弘前	8.3	6.5	+1.8
黒石	8.2	6.5	+1.7
酸ヶ湯	3.0	1.2	+1.8
三沢	8.6	7.0	+1.6
十和田	7.9	6.3	+1.6
八戸	8.8	7.3	+1.5
碓ヶ関	6.7	5.1	+1.6
休屋	6.0	4.5	+1.5
三戸	7.1	6.0	+1.1

12月の月平均気温

12月の前半は高気圧覆われ晴れる日が多く、気温が平年より高かったが、後半は冬型の気圧配置が続き、気温は平年より低かった。

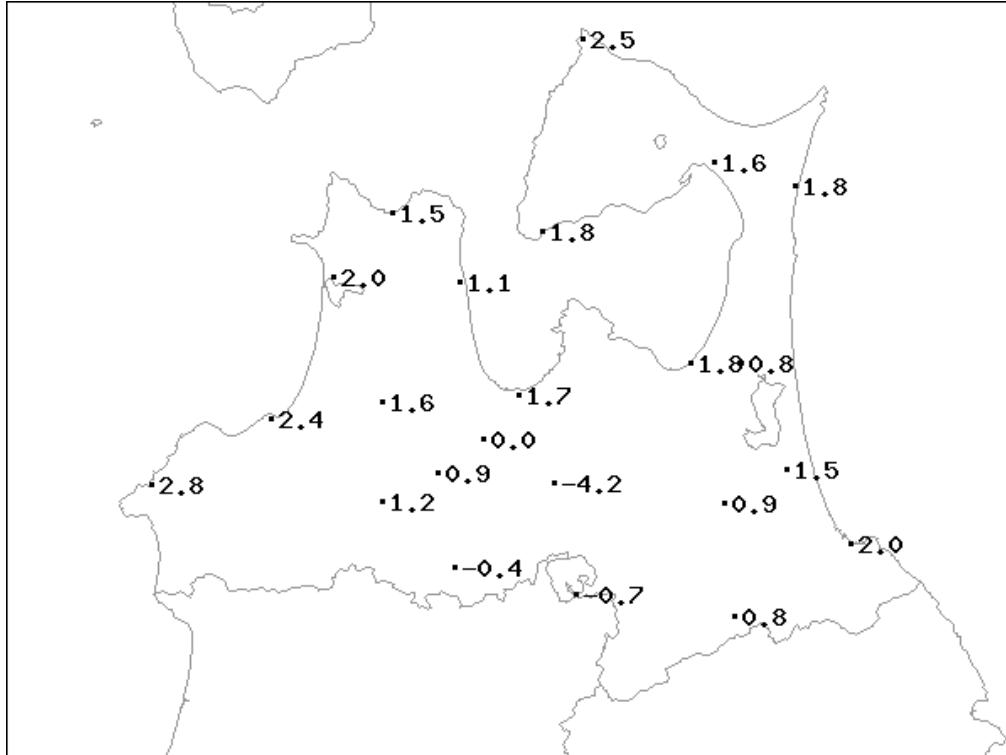


図 3-2 青森県内の 2021 年 12 月の月平均気温

表 3-2 青森県内の 2021 年 12 月の月平均気温

地点名	実況値	平年値	平年差
大間	2.5	2.2	+0.3
むつ	1.6	1.2	+0.4
小田野沢	1.8	1.2	+0.6
今別	1.5	1.4	+0.1
脇野沢	1.8	1.7	+0.1
市浦	2.0	1.8	+0.2
蟹田	1.1	0.7	+0.4
五所川原	1.6	1.3	+0.3
青森	1.7	1.4	+0.3
野辺地	1.8	1.6	+0.2
六ヶ所	0.8	0.8	0.0
鱒ヶ沢	2.4	2.1	+0.3
青森大谷	0.0	-0.4	+0.4
深浦	2.8	2.4	+0.4
弘前	1.2	0.8	+0.4
黒石	0.9	0.7	+0.2
酸ヶ湯	-4.2	-4.9	+0.7
三沢	1.5	1.2	+0.3
十和田	0.9	0.6	+0.3
八戸	2.0	1.7	+0.3
碓ヶ関	-0.4	-0.6	+0.2
休屋	-0.7	-1.2	+0.5
三戸	0.8	0.6	+0.2

1月の月平均気温

1月は冬型の気圧配置が続き、雪の降る日が多かった。気温は概ね平年並みであった。

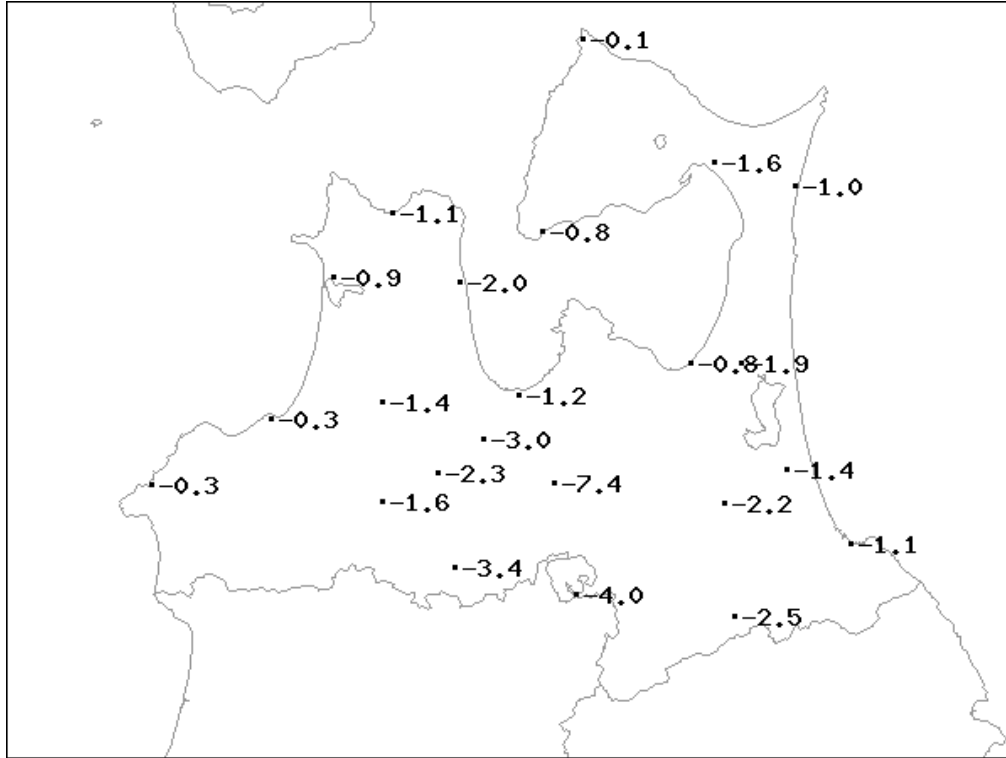


図 3-3 青森県内の 2022 年 1 月の月平均気温

表 3-3 青森県内の 2022 年 1 月の月平均気温

地点名	実況値	平年値	平年差
大間	-0.1	0.0	-0.1
むつ	-1.6	-1.2	-0.4
小田野沢	-1.0	-1.0	0.0
今別	-1.1	-0.8	-0.3
脇野沢	-0.8	-0.6	-0.2
市浦	-0.9	-0.6	-0.3
蟹田	-2.0	-1.4	-0.6
五所川原	-1.4	-1.1	-0.3
青森	-1.2	-0.9	-0.3
野辺地	-0.8	-0.7	-0.1
六ヶ所	-1.9	-1.5	-0.4
鱒ヶ沢	-0.3	-0.2	-0.1
青森大谷	-3.0	-2.9	-0.1
深浦	-0.3	0.0	-0.3
弘前	-1.6	-1.5	-0.1
黒石	-2.3	-1.8	-0.5
酸ヶ湯	-7.4	-7.5	+0.1
三沢	-1.4	-1.1	-0.3
十和田	-2.2	-1.7	-0.5
八戸	-1.1	-0.7	-0.4
碓ヶ関	-3.4	-3.0	-0.4
休屋	-4.0	-3.7	-0.3
三戸	-2.5	-1.8	-0.7

2月の月平均気温

2月は冬型の気圧配置と低気圧の影響で雪が降る日が多かった。中旬は高気圧に覆われ晴れる日があった。気温は平年並みまたは低かった。

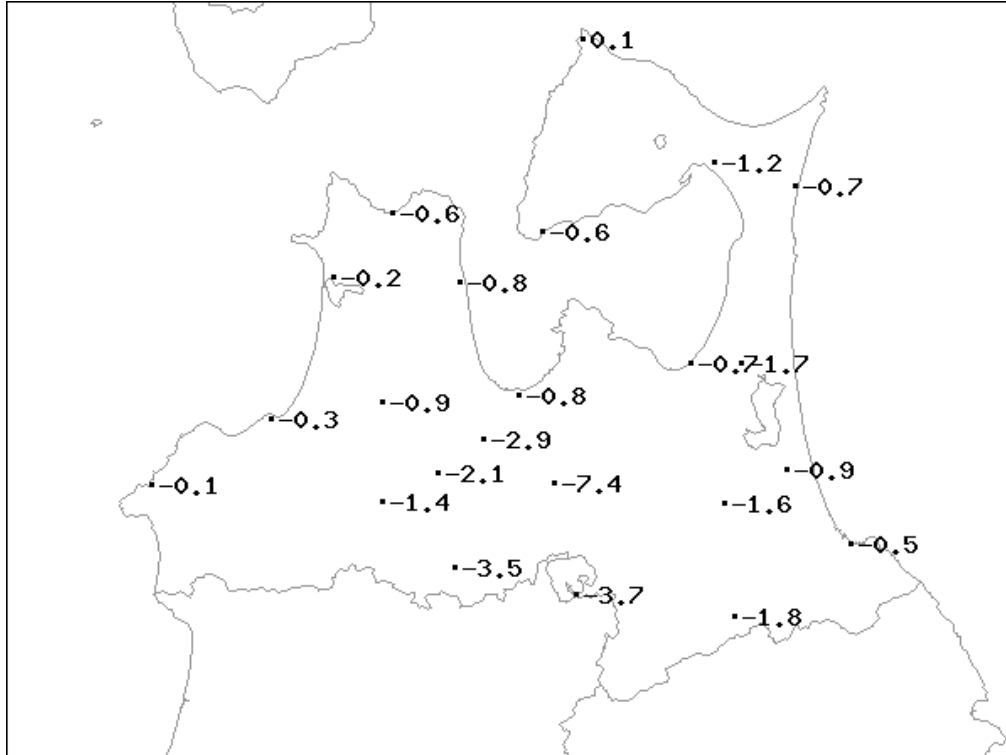


図 3-4 青森県内の 2022 年 2 月の月平均気温

表 3-4 青森県内の 2022 年 2 月の月平均気温

地点名	実況値	平年値	平年差
大間	0.1	0.2	-0.1
むつ	-1.2	-0.9	-0.3
小田野沢	-0.7	-0.7	0.0
今別	-0.6	-0.4	-0.2
脇野沢	-0.6	-0.4	-0.2
市浦	-0.2	-0.2	0.0
蟹田	-0.8	-1.0	+0.2
五所川原	-0.9	-0.7	-0.2
青森	-0.8	-0.4	-0.4
野辺地	-0.7	-0.5	-0.2
六ヶ所	-1.7	-1.2	-0.5
鱒ヶ沢	-0.3	0.1	-0.4
青森大谷	-2.9	-2.3	-0.6
深浦	-0.1	0.3	-0.4
弘前	-1.4	-1.0	-0.4
黒石	-2.1	-1.4	-0.7
酸ヶ湯	-7.4	-6.9	-0.5
三沢	-0.9	-0.6	-0.3
十和田	-1.6	-1.3	-0.3
八戸	-0.5	-0.2	-0.3
碓ヶ関	-3.5	-2.4	-1.1
休屋	-3.7	-3.3	-0.4
三戸	-1.8	-1.2	-0.6

3月の月平均気温

寒気の影響が弱かったため気温は高めで推移した。

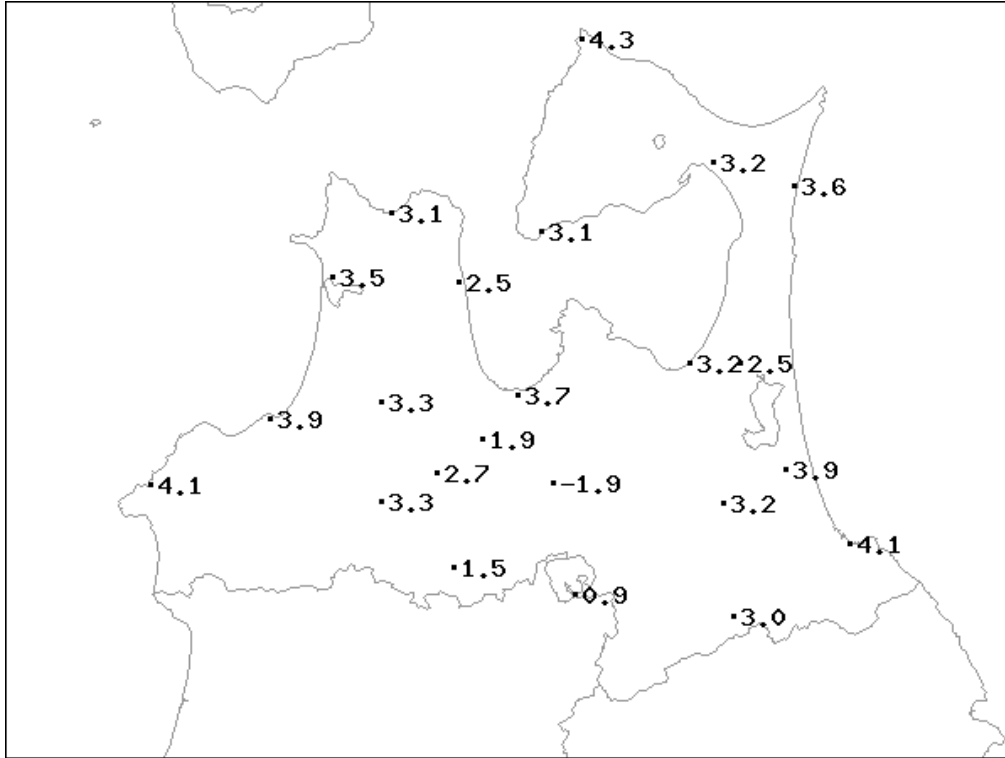


図 3-5 青森県内の 2022 年 3 月の月平均気温

表 3-5 青森県内の 2022 年 3 月の月平均気温

地点名	実況値	平年値	平年差
大間	4.3	3.1	+1.2
むつ	3.2	2.3	+0.9
小田野沢	3.6	2.3	+1.3
今別	3.1	2.5	+0.6
脇野沢	3.1	2.5	+0.6
市浦	3.5	2.8	+0.7
蟹田	2.5	2.0	+0.5
五所川原	3.3	2.5	+0.8
青森	3.7	2.8	+0.9
野辺地	3.2	2.6	+0.6
六ヶ所	2.5	1.9	+0.6
鱒ヶ沢	3.9	3.0	+0.9
青森大谷	1.9	0.9	+1.0
深浦	4.1	3.2	+0.9
弘前	3.3	2.3	+1.0
黒石	2.7	2.0	+0.7
酸ヶ湯	-1.9	-3.5	+1.6
三沢	3.9	2.8	+1.1
十和田	3.2	2.2	+1.0
八戸	4.1	3.1	+1.0
碓ヶ関	1.5	1.0	+0.5
休屋	0.9	-0.3	+1.2
三戸	3.0	2.4	+0.6

4. 青森県内のこの冬の降雪の深さの合計値と最深積雪（2021年11月～2022年3月）

この冬の降雪の深さの合計値（累積の降雪量）は、野辺地（131%）・深浦（107%）・青森（106%）・むつ（105%）等で100%を超えたが、半数以上の地点では平年より少なかった（図4-1、表4-1）。野辺地・深浦・青森では、この冬は狭い範囲で強い雪を降らす収束線や小低気圧の影響を受け、局地的に降雪量が多くなった。

最深積雪は平年より多い地点が多かった（図4-2、表4-2）。累積の降雪量が少ない地点でも、最深積雪が多くなったのは、降雪が短い期間に集中的に降った影響と考えられる。

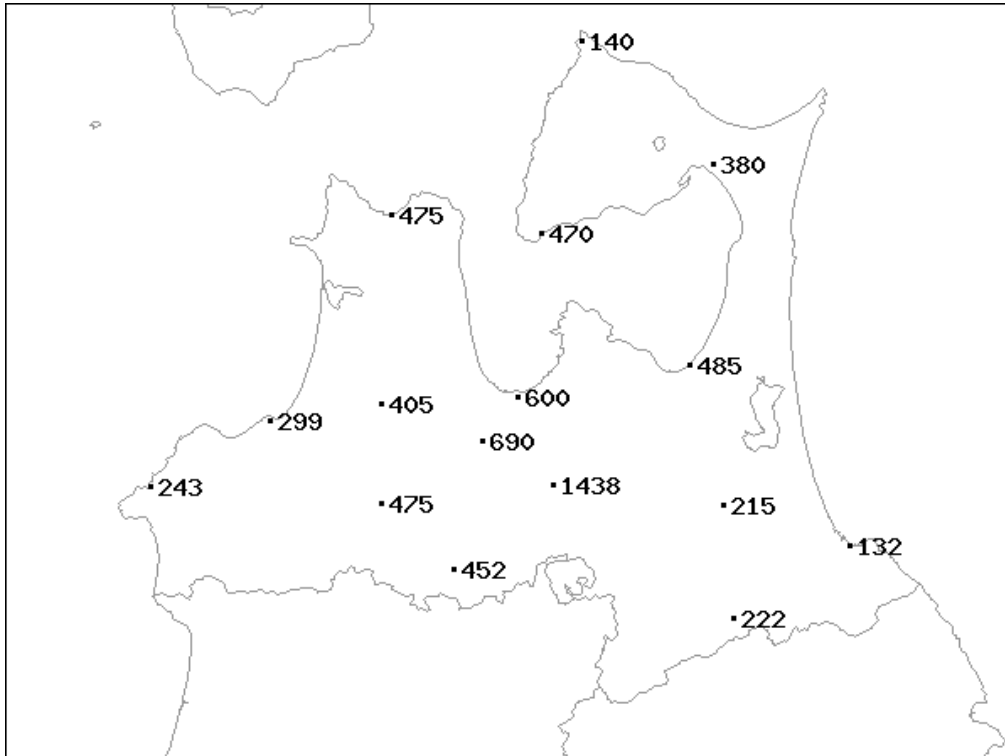


図4-1 降雪の深さの分布図（累積の降雪量）（2021年11月から2022年4月）

表4-1 降雪の深さ実況値、平年値、平年比

地点名	実況値	平年値	平年比 (%)
大間	140	207	68
むつ	380	362	105
今別	475	498	95
脇野沢	470	539	87
五所川原	405	550	74
青森	600	566	106
野辺地	485	371	131
鱒ヶ沢	299	411	73
青森大谷	690	//	//
深浦	243	227	107
弘前	475	686	69
酸ヶ湯	1438	1548	93
十和田	215	396	54
八戸	132	135	98
碓ヶ関	452	619	73
三戸	222	365	61

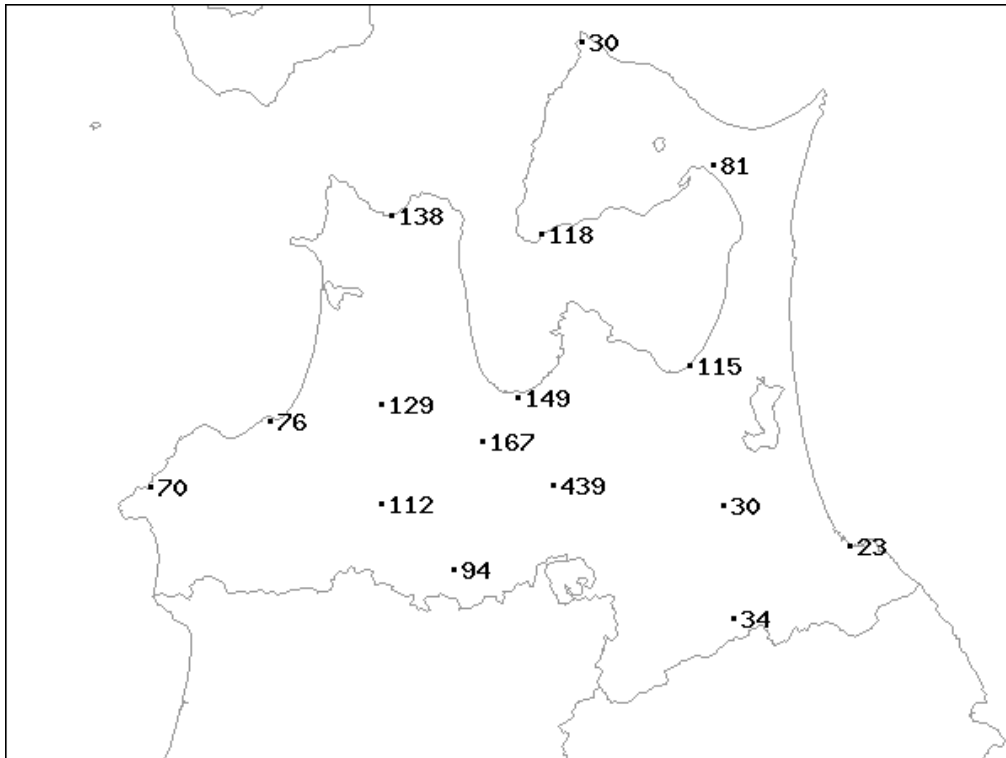


図 4-2 最深積雪の分布図 (2021年11月から2022年4月)

表 4-2 最深積雪の実況値、平年値、平年比

地点名	実況値	平年値	平年比 (%)	地点名	実況値	平年値	平年比 (%)
大間	30	27	111	青森大谷	167	//	//
むつ	81	57	142	深浦	70	37	189
今別	138	81	170	弘前	112	87	129
脇野沢	118	66	179	酸ヶ湯	439	373	118
五所川原	129	78	165	十和田	30	46	65
青森	149	97	154	八戸	23	21	110
野辺地	115	54	213	碓ヶ関	94	91	103
鱒ヶ沢	76	52	146	三戸	34	46	74

★平年値は 1981 年～2010 年の 30 年間の平均値。 ※最深積雪は 11 月～3 月の月別平年値の最大値

★日別値等、更に詳しいデータを必要とされる場合は、

気象庁・気象統計情報 (<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>)をご覧ください。

★データに付加する記号の意味

値)：準正常値、統計値を求める対象となる資料の一部が欠けているが許容する資料数を満たす値

値]：資料不足値、統計値を求める対象となる資料が許容する資料数に満たない値 ×：資料なし //：平年値なし

5. 青森県のこの冬の主な地点の積雪と降雪の深さの経過

青森

降雪の深さ合計 600cm (2021年11月から2022年3月の合計)
 日最深積雪 149cm (2022年2月8日)
 日降雪の深さ最大値 52cm (2021年12月27日)

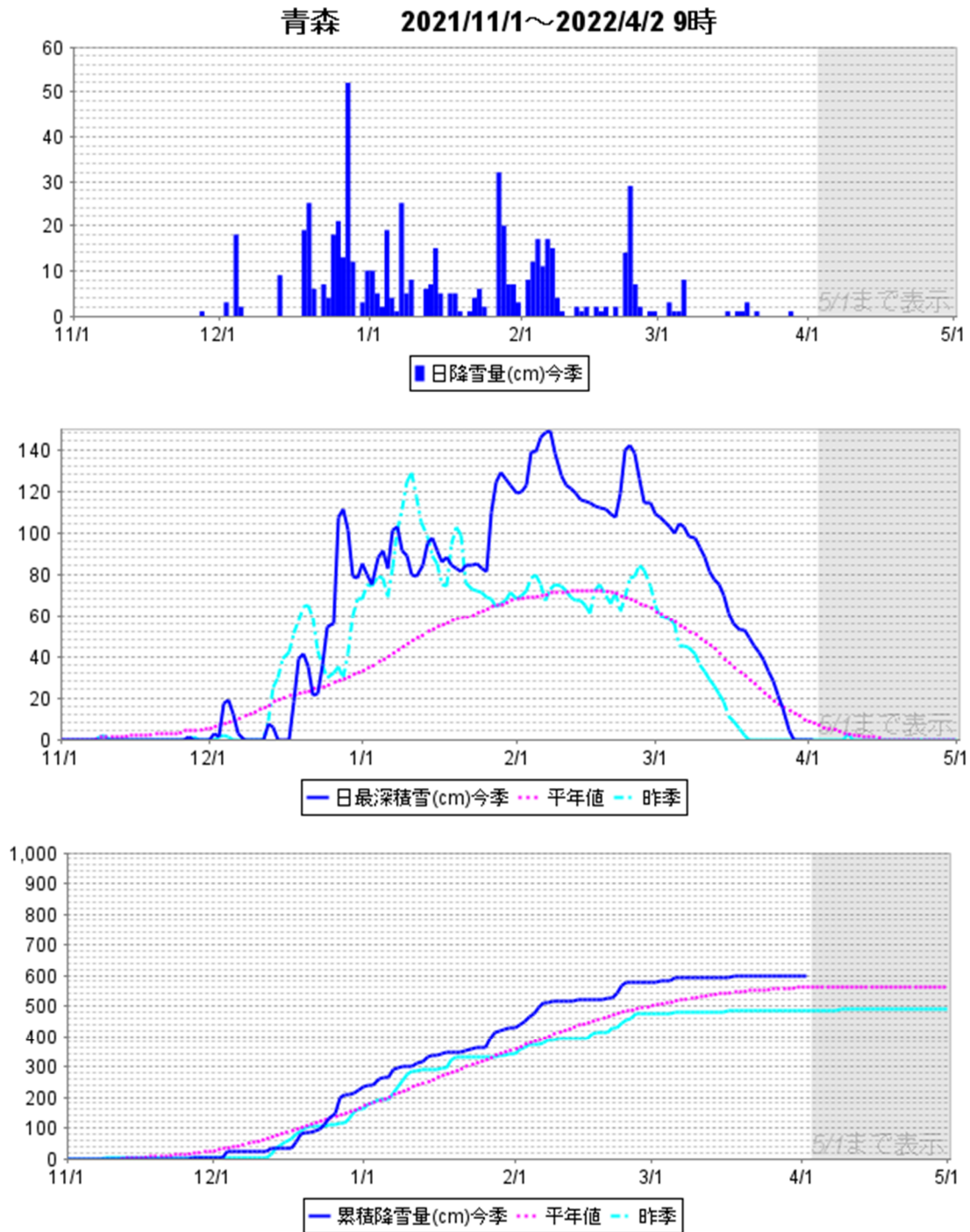


図 5-1 青森の日降雪量（上）、日最深積雪（中）、累積降雪量（下）の時系列

弘前

降雪の深さ合計 475cm (2021年11月から2022年3月の合計)
 日最深積雪 112cm (2022年2月23日)
 日降雪の深さ最大値 27cm (2022年1月5日)

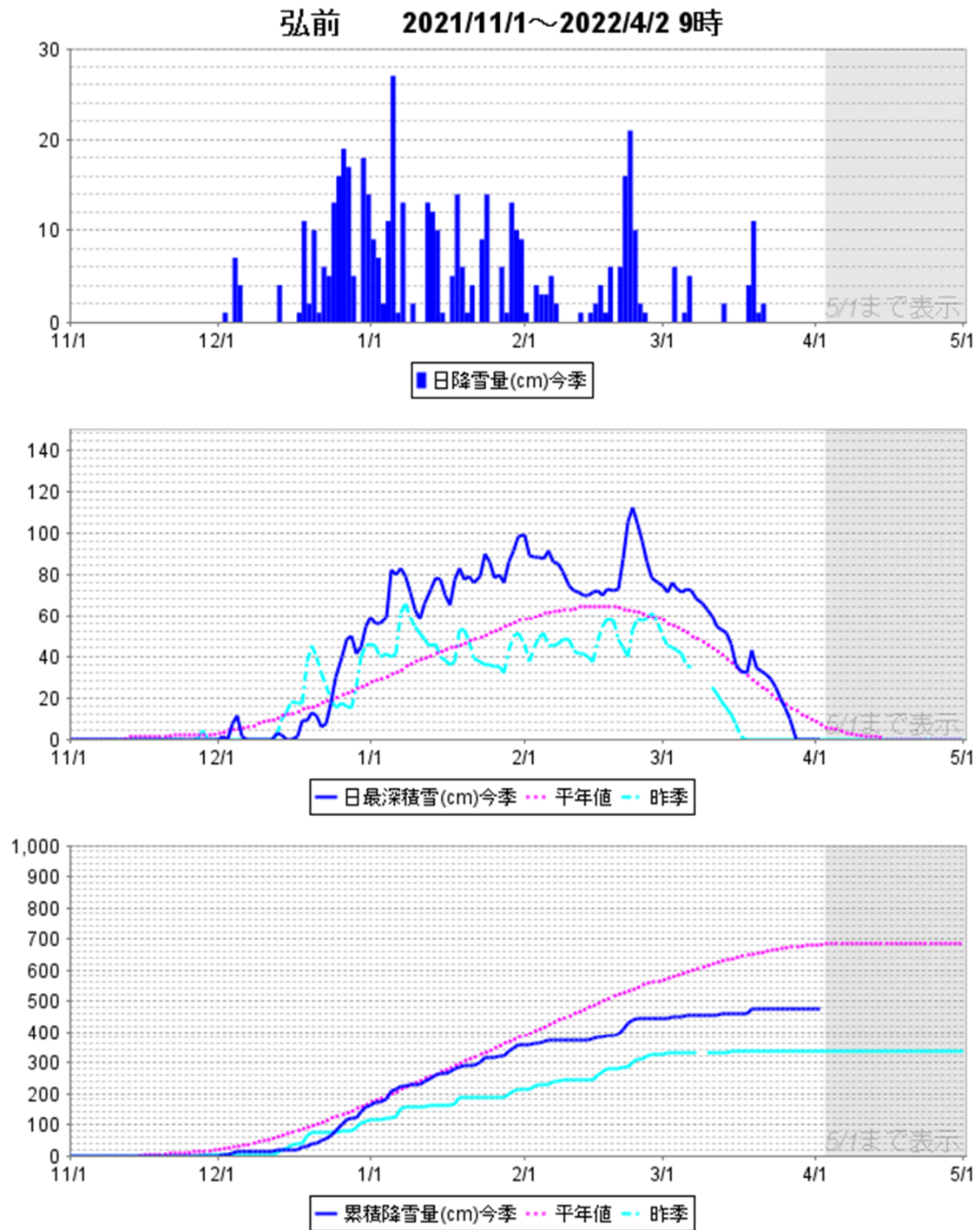


図 5-2 弘前の日降雪量（上）、日最深積雪（中）、累積降雪量（下）の時系列

五所川原

降雪の深さ合計 405cm (2021年11月から2022年3月の合計)
 日最深積雪 129cm (2022年2月8日)
 日降雪の深さ最大値 33cm (2022年1月27日)

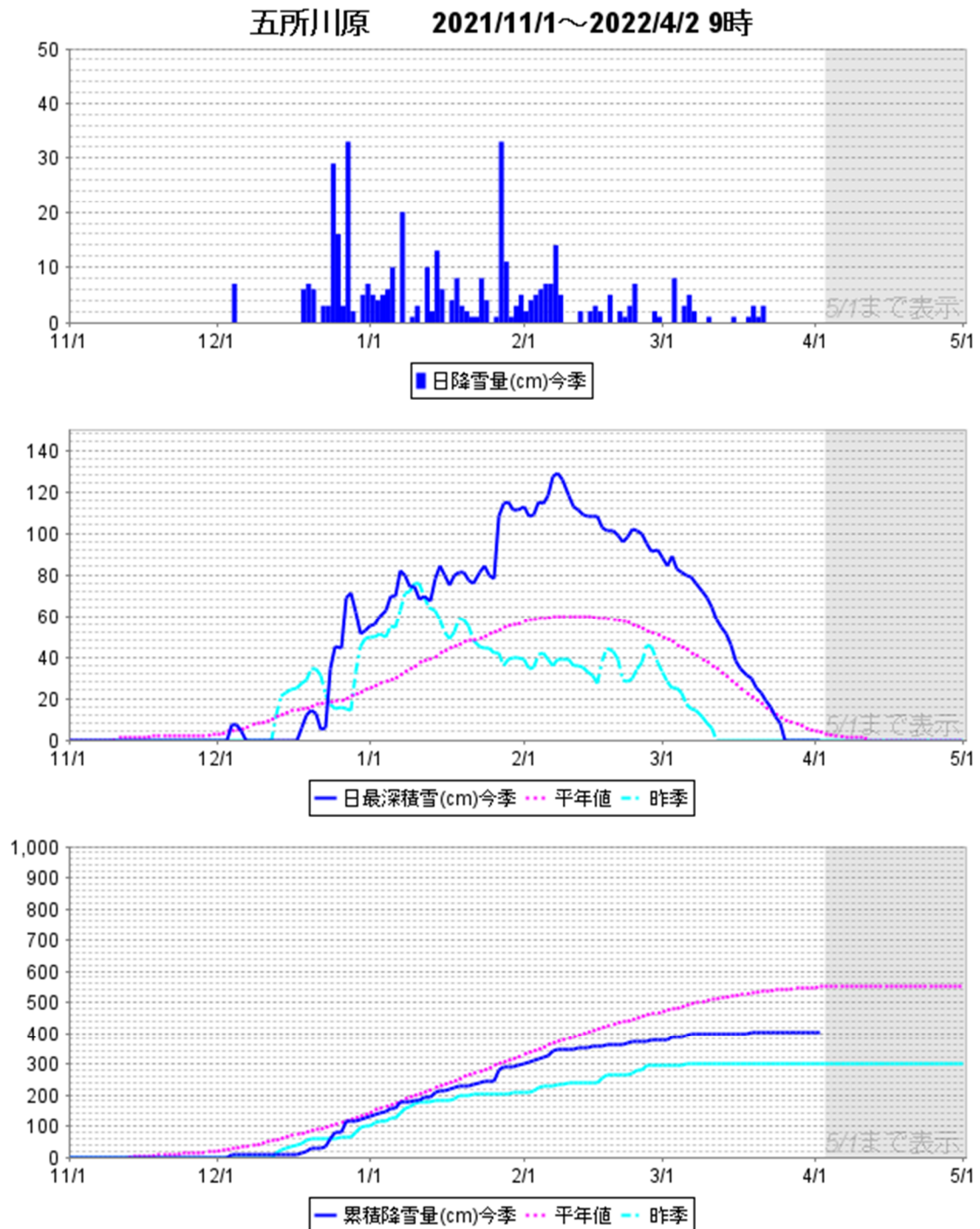


図 5-3 五所川原の日降雪量（上）、日最深積雪（中）、累積降雪量（下）の時系列

碓ヶ関

降雪の深さ合計 452cm (2021年11月から2022年3月の合計)
 日最深積雪 94cm (2022年2月22日)
 日降雪の深さ最大値 29cm (2022年1月1日)

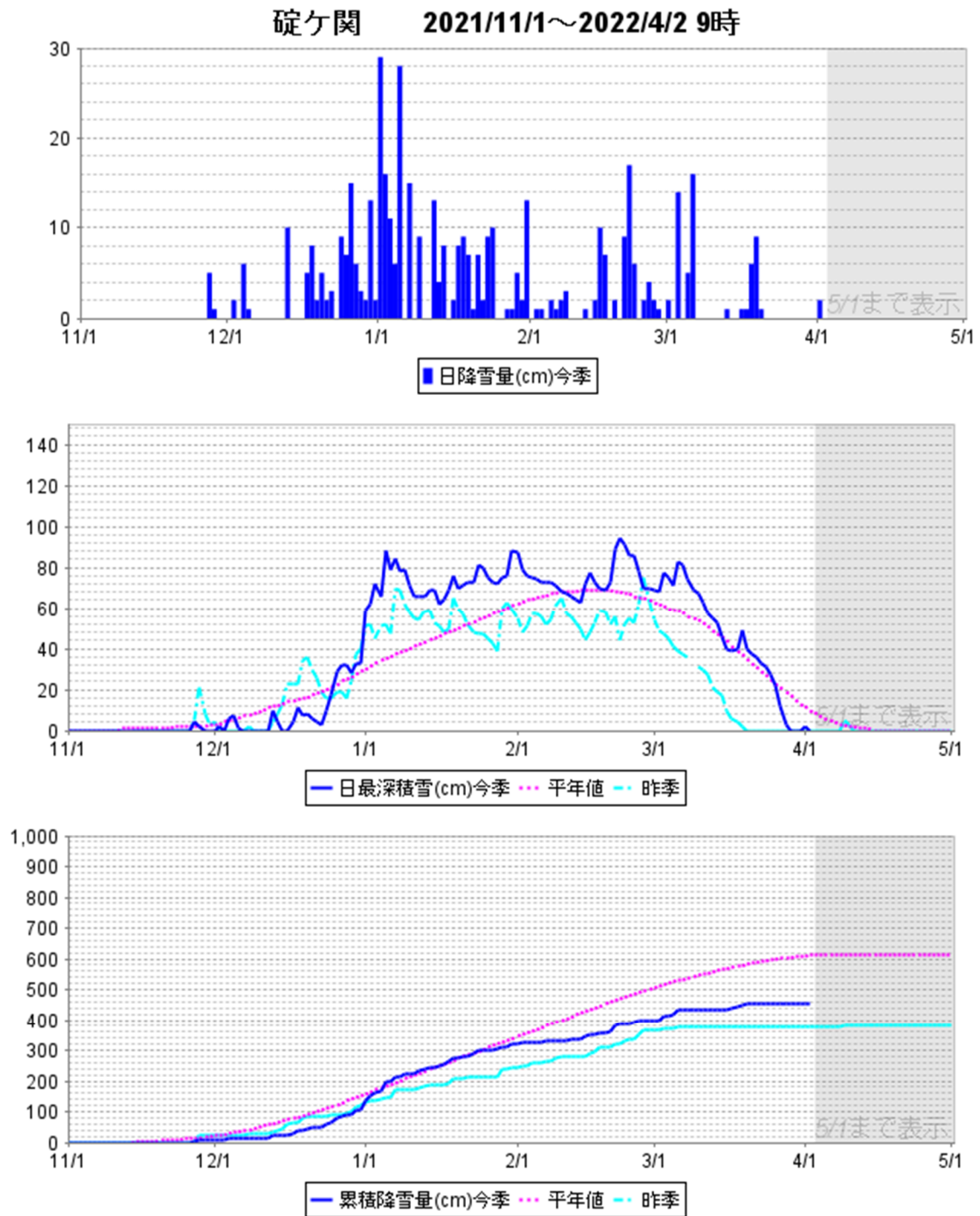


図 5-4 碓ヶ関の日降雪量（上）、日最深積雪（中）、累積降雪量（下）の時系列

鱒ヶ沢

降雪の深さ合計 299cm (2021年11月から2022年3月の合計)
 日最深積雪 76cm (2022年2月8日)
 日降雪の深さ最大値 23cm (2021年12月24日)

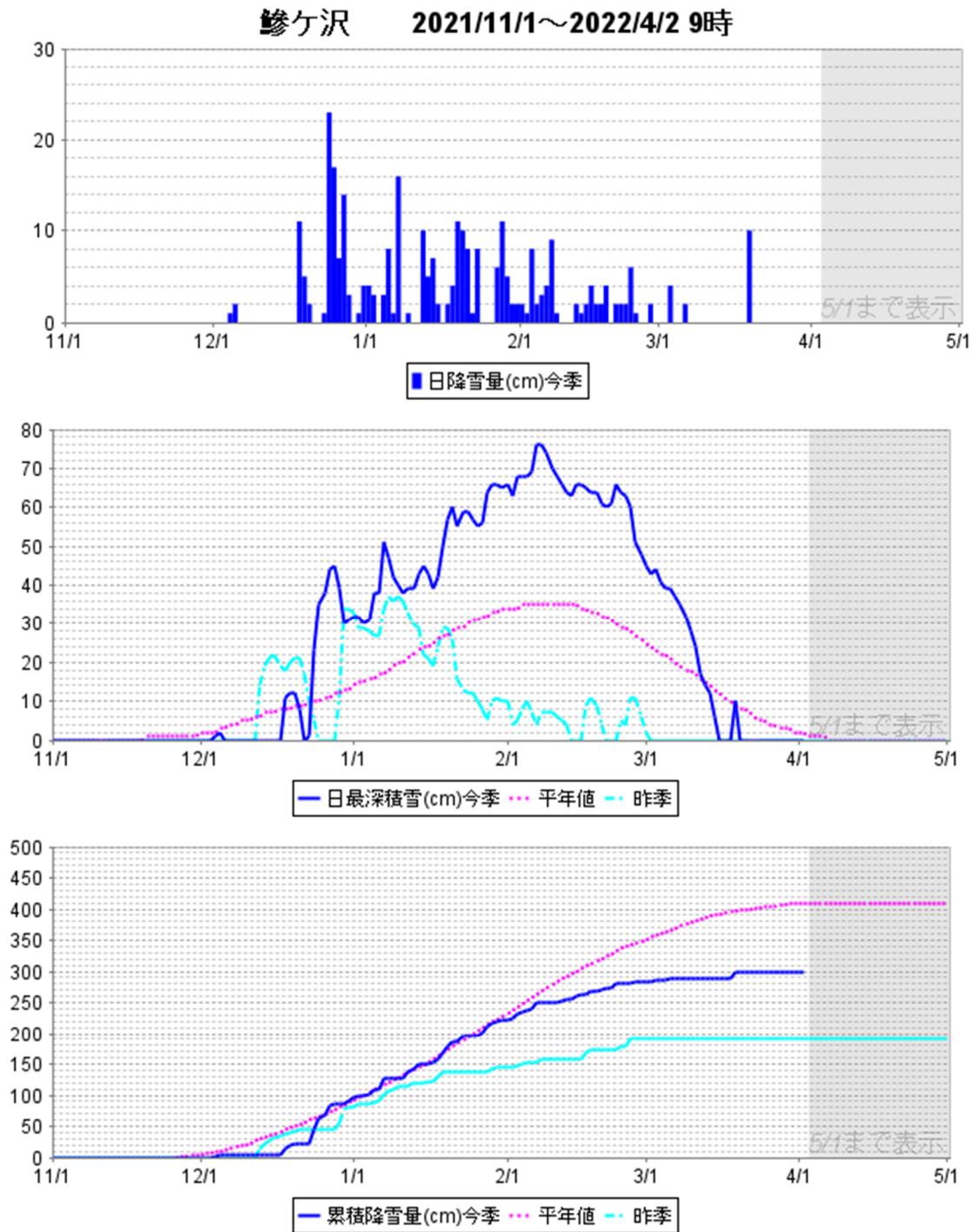


図 5-5 鱒ヶ沢の日降雪量（上）、日最深積雪（中）、累積降雪量（下）の時系列

深浦

降雪の深さ合計 243cm (2021年11月から2022年3月の合計)
 日最深積雪 70cm (2022年1月21日)
 日降雪の深さ最大値 28cm (2022年1月20日)

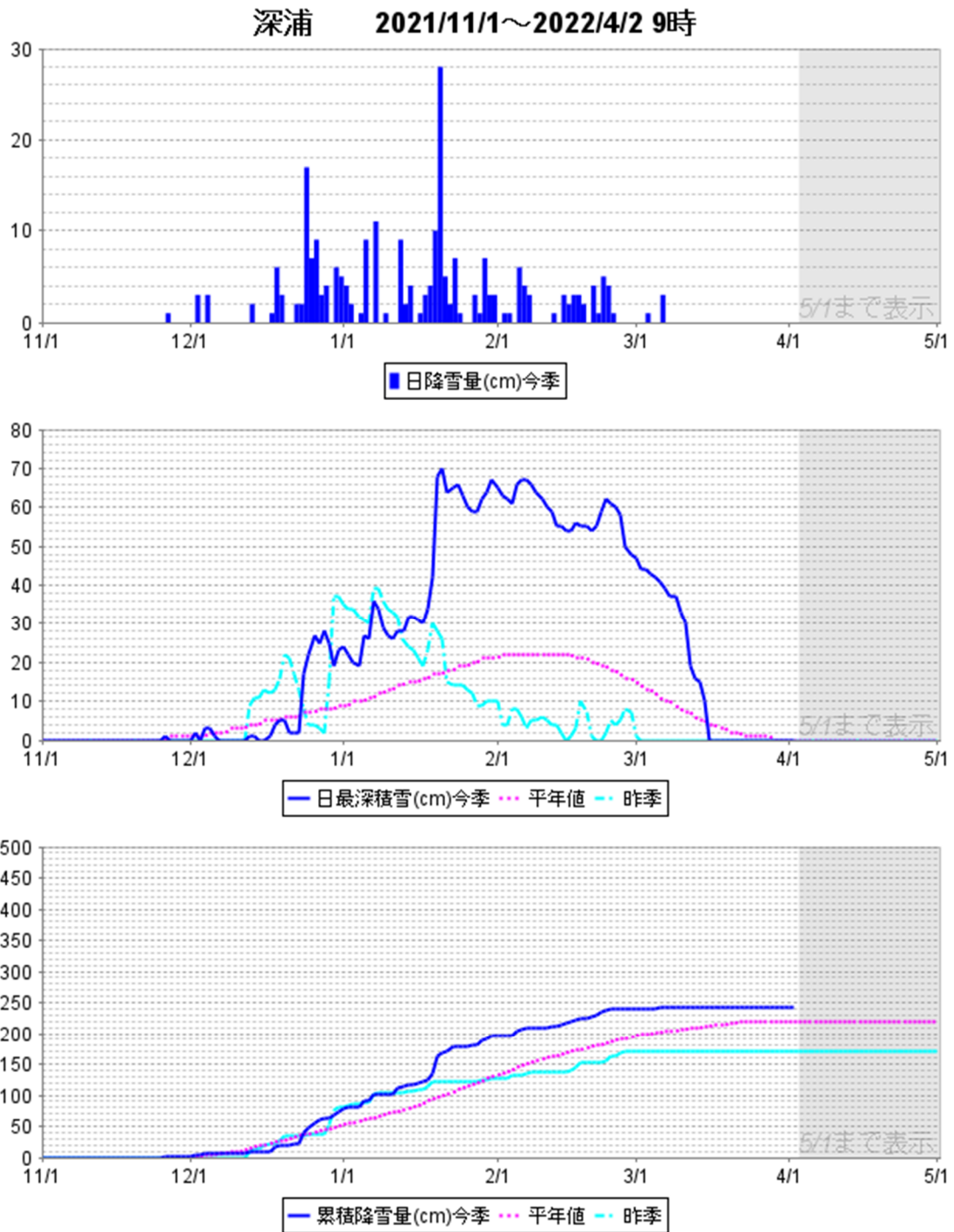


図 5-6 深浦の日降雪量（上）、日最深積雪（中）、累積降雪量（下）の時系列

今別

降雪の深さ合計 475cm (2021年11月から2022年3月の合計)
 日最深積雪 138cm (2022年2月7日)
 日降雪の深さ最大値 19cm (2022年1月17日)

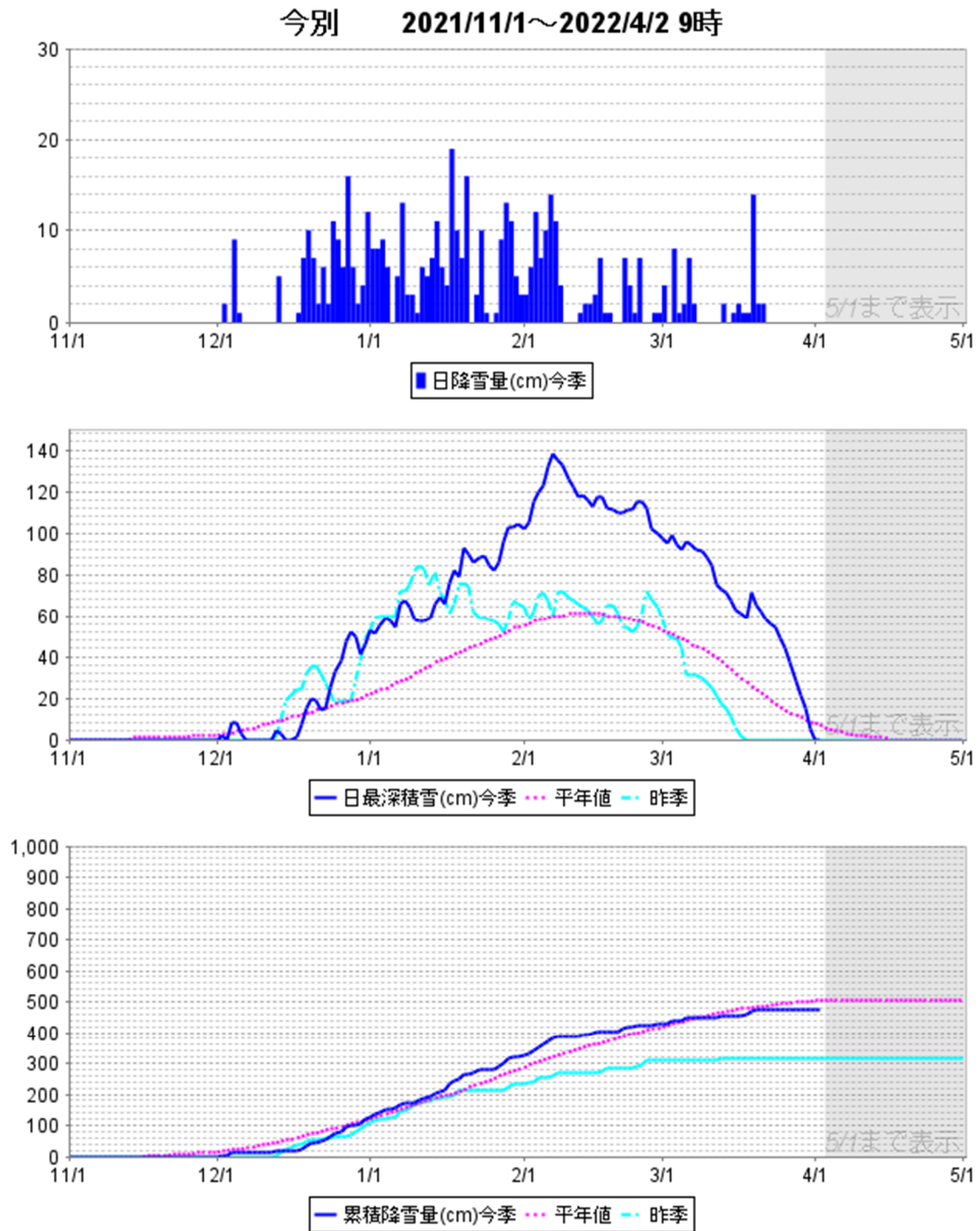


図 5-7 今別の日降雪量（上）、日最深積雪（中）、累積降雪量（下）の時系列

酸ヶ湯

降雪の深さ合計 1438cm (2021年11月から2022年3月の合計)
 日最深積雪 439cm (2022年2月7日)
 日降雪の深さ最大値 58cm (2021年12月18日)

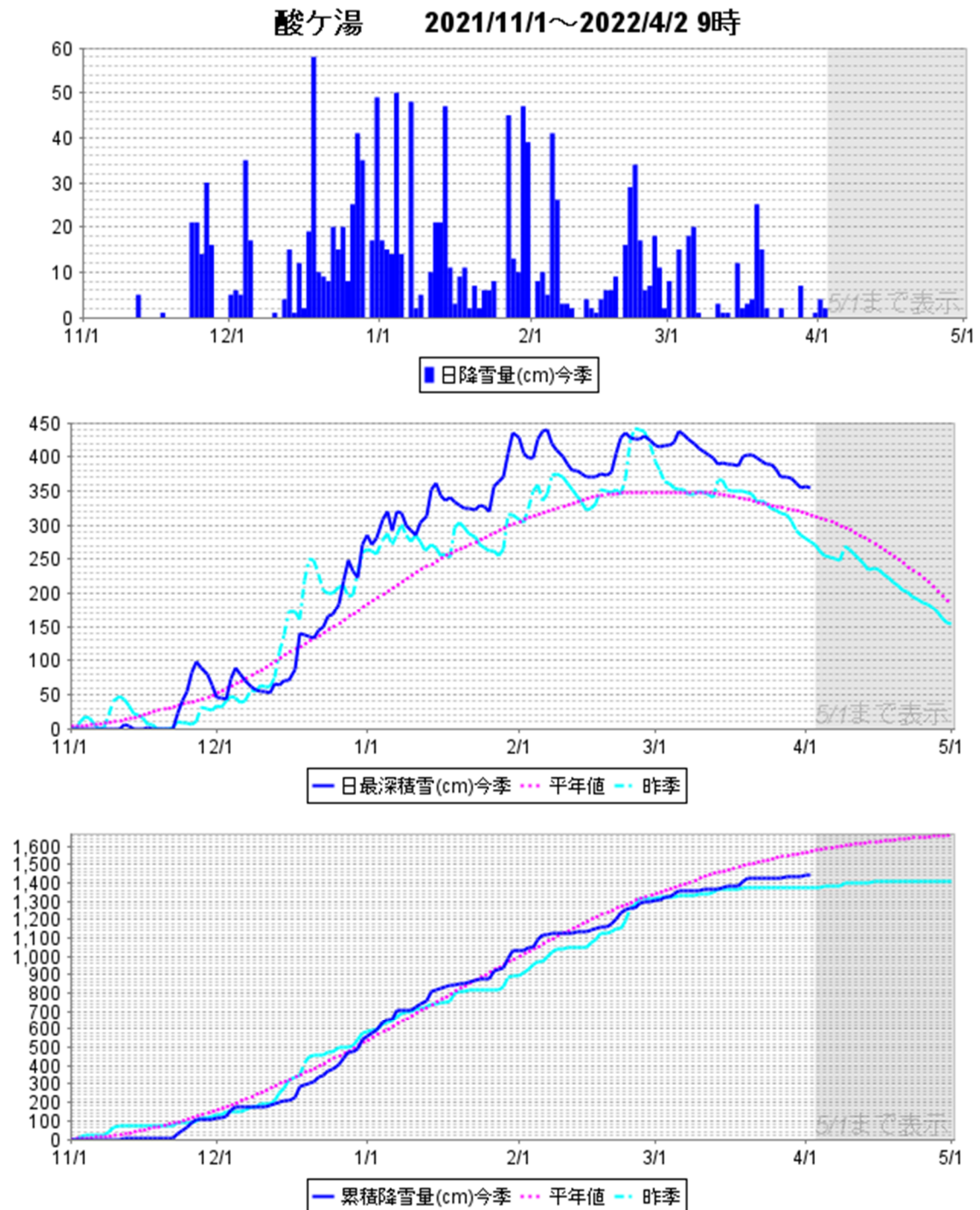


図 5-8 酸ヶ湯の日降雪量（上）、日最深積雪（中）、累積降雪量（下）の時系列

むつ

降雪の深さ合計 380cm (2021年11月から2022年3月の合計)
 日最深積雪 81cm (2022年2月5日)
 日降雪の深さ最大値 20cm (2022年1月28日)

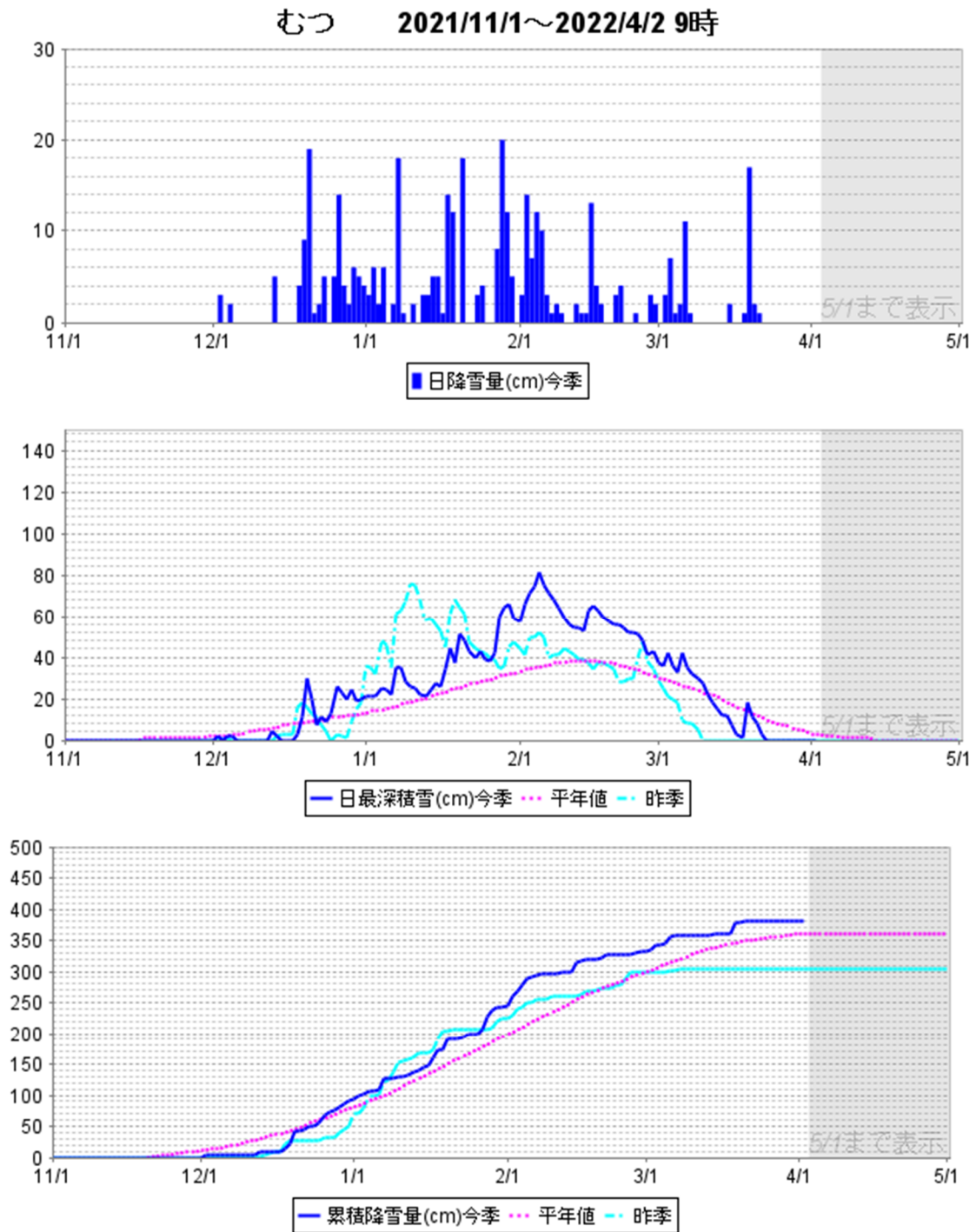


図 5-9 むつの日降雪量（上）、日最深積雪（中）、累積降雪量（下）の時系列

八戸

降雪の深さ合計 132cm (2021年11月から2022年3月の合計)
 日最深積雪 23cm (2022年2月17日)
 日降雪の深さ最大値 10cm (2022年1月20日)

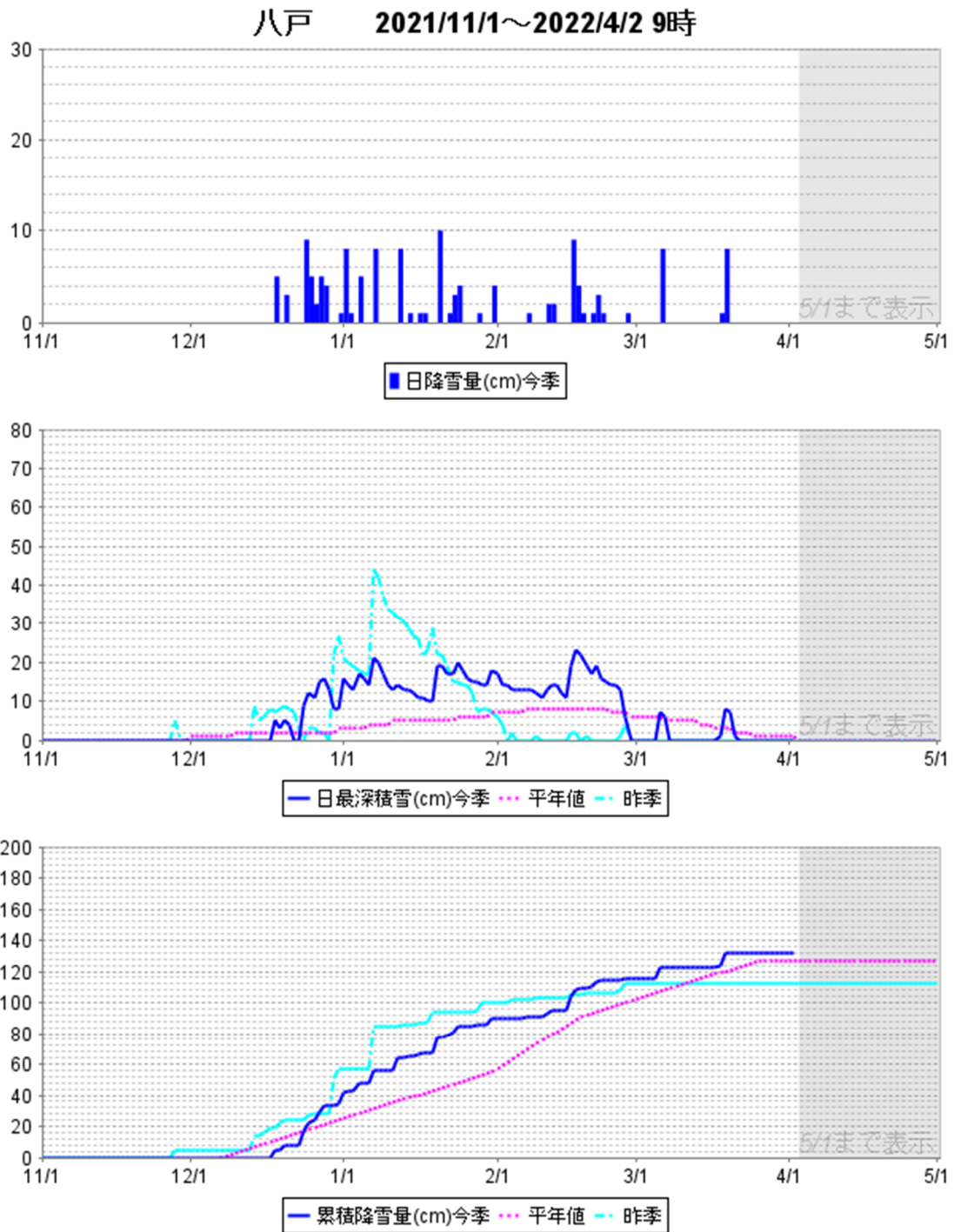


図 5-10 八戸の日降雪量(上)、日最深積雪(中)、累積降雪量(下)の時系列

十和田

降雪の深さ合計 215cm (2021年11月から2022年3月の合計)
 日最深積雪 30cm (2022年1月7日)
 日降雪の深さ最大値 24cm (2022年3月19日)

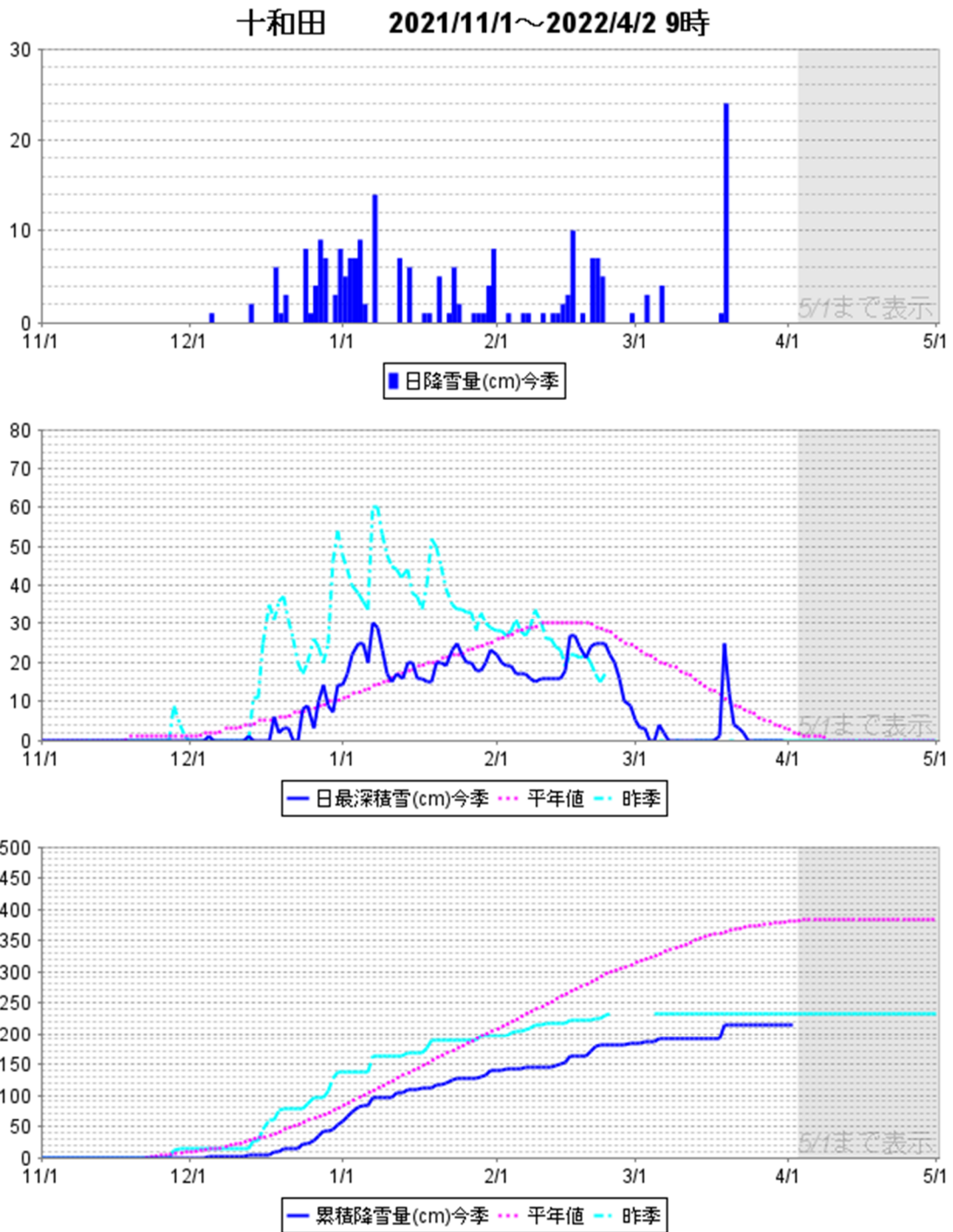


図 5-11 十和田の日降雪量（上）、日最深積雪（中）、累積降雪量（下）の時系列

野辺地

降雪の深さ合計 485cm (2021年11月から2022年3月の合計)
 日最深積雪 115cm (2022年2月17日)
 日降雪の深さ最大値 38cm (2021年12月27日)

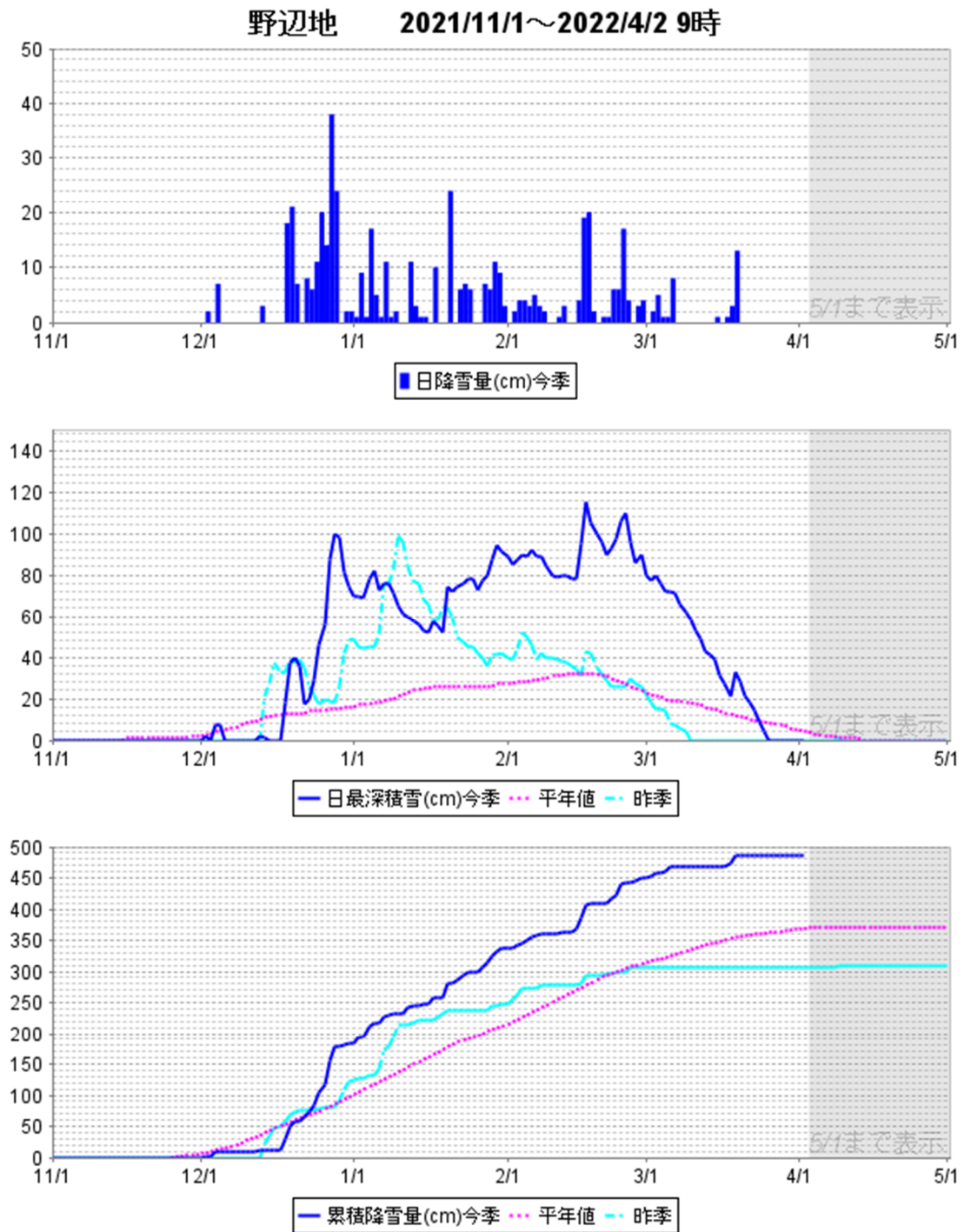


図 5-12 野辺地の日降雪量（上）、日最深積雪（中）、累積降雪量（下）の時系列

三戸

降雪の深さ合計 222cm (2021年11月から2022年3月の合計)
 日最深積雪 34cm (2022年2月22日)
 日降雪の深さ最大値 23cm (2022年3月19日)

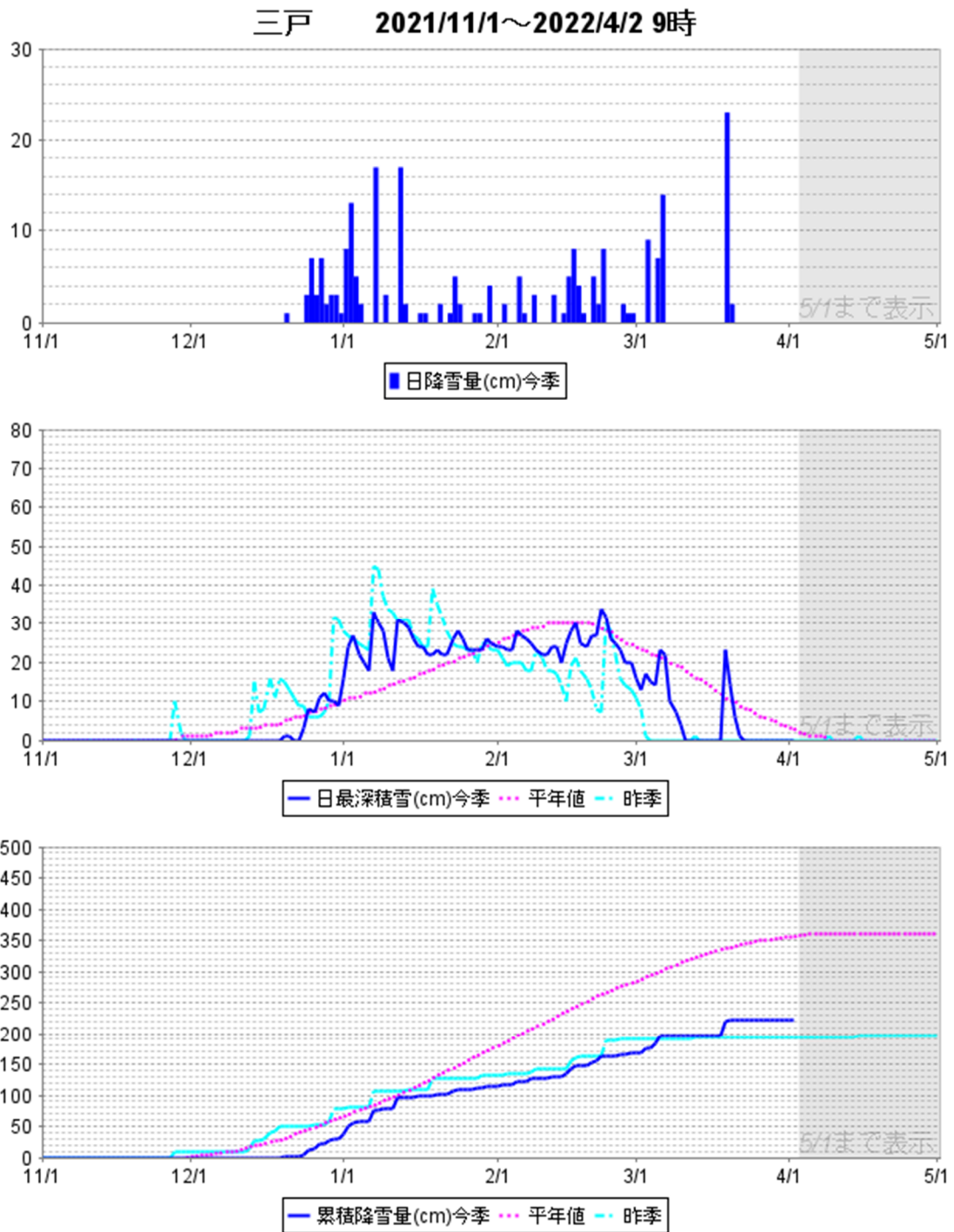


図 5-13 三戸の日降雪量（上）、日最深積雪（中）、累積降雪量（下）の時系列

6. 青森県のこの冬の大雪警報の発表状況

この冬に青森県に大雪警報を発表したのは4回（表6）であった。この冬は、津軽地方で大雪警報の発表回数が3回と多くなった。

表6 ここ数年の大雪警報の発表状況

	大雪警報発表日：一次細分区域*
2015年11月～ 2016年3月	2015年12月26日～27日：下北 2016年1月18日～19日：津軽、三八上北 2016年1月21日：津軽、三八上北 2016年1月22日：下北 2016年1月25日：津軽
2016年11月～ 2017年3月	大雪警報発表なし
2017年11月～ 2018年3月	2018年2月4日：下北
2018年11月～ 2019年3月	大雪警報発表なし
2019年11月～ 2020年3月	2019年12月27日：津軽、三八上北 2020年2月9日：津軽 2020年2月17日：下北
2020年11月～ 2021年3月	2021年1月7日～8日：津軽、下北 2021年1月19日：下北 2021年2月26日：下北
2021年11月～ 2022年3月	2021年12月24日：津軽 2021年12月27日～28日：津軽、三八上北 2022年1月28日：津軽 2022年2月16日：下北

*：大雪警報を発表した市町村を一次細分区域（津軽、下北、三八上北）で表記

7. 年末年始の日本海側を中心とした大雪について

2021年12月下旬以降、冬型の気圧配置が強まって大陸から日本付近へ寒気が流入しやすい状態が続いたため、北日本から西日本の日本海側を中心にしばしば大雪となり、特に、近畿日本海側での12月の降雪量は平年比504%と、12月としては2005年(平年比640%)に次ぐ第2位の多雪となりました。また、期間中の平均気温は全国的に平年よりも低くなりました。青森県内でも、12月27日の日降雪量が青森で52cm、野辺地で38cm、五所川原で33cmなどと降雪量が多くなりました。

大雪をもたらした12月下旬から1月上旬にかけての大規模な大気の流れの特徴は以下のとおりです。

高緯度帯の偏西風(寒帯前線ジェット気流)が極東域で著しく蛇行して日本付近まで南下したため、冬型の気圧配置が強まって日本付近に寒気が流れ込みやすくなりました。このため、日本海側を中心に大雪となり、全国的に低温となりました。特に、12月26日頃のアジア大陸から西日本付近への寒気の流れ込みは12月としては強いものでした。

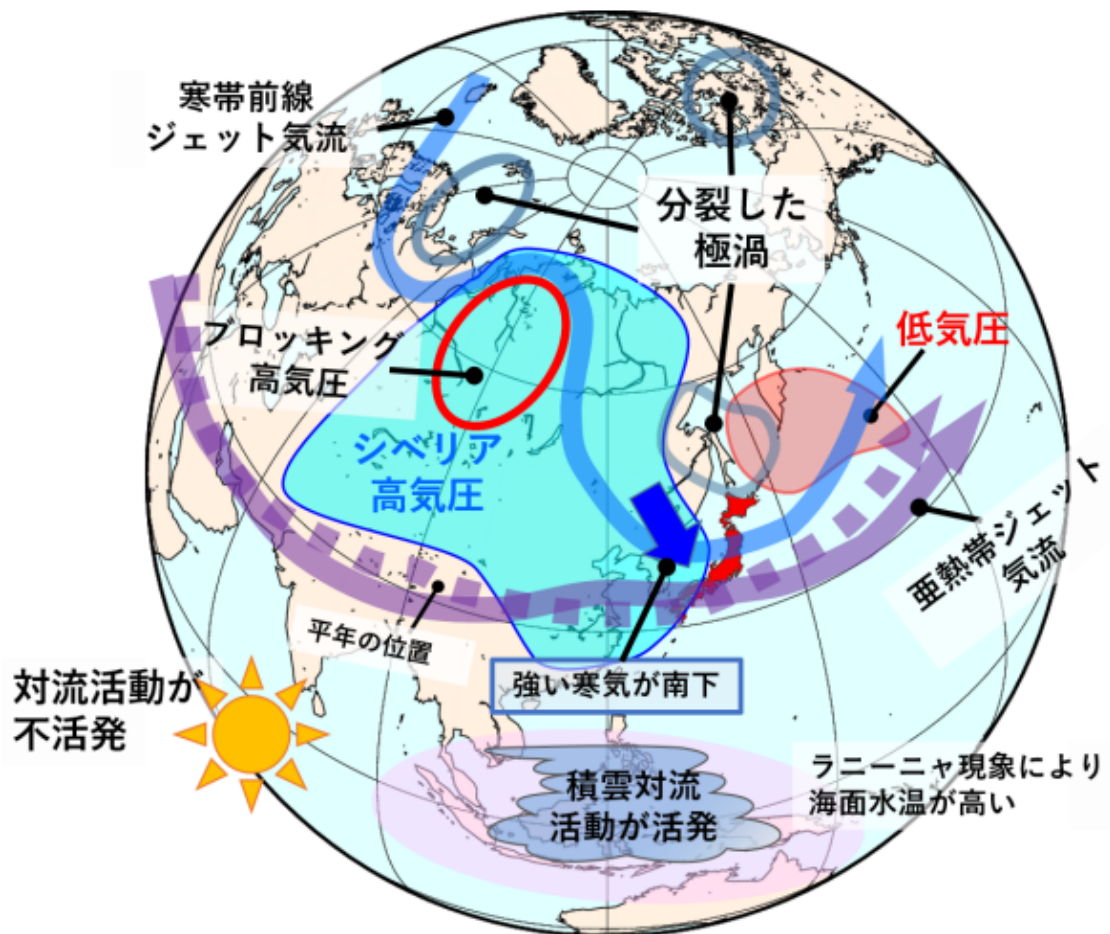


図7 大雪をもたらした大気の流れの特徴

- 寒帯前線ジェット気流が蛇行した要因

寒帯前線ジェット気流が蛇行して日本付近まで南下したことは、西シベリア上空にブロッキング高気圧が形成されたことや、ヨーロッパ方面から見られるジェット気流の蛇行の強化が主に影響したとみられます。寒帯前線ジェット気流の蛇行とともに、北極域上空に存在していた極渦が分裂して日本の直ぐ北まで南下し、日本の上空には強い寒気が流入しました。寒帯前線ジェット気流がヨーロッパで南に蛇行、西シベリアで北に蛇行、日本付近で南に蛇行する大気の流れは、ユーラシア（EU）パターンと呼ばれ、冬季に日本付近に寒波をもたらす典型的な循環パターンのひとつとして知られているものです。

- 亜熱帯ジェット気流が蛇行した要因

亜熱帯ジェット気流は日本の西でやや北に蛇行する一方、日本付近から東海上にかけて南に蛇行したことで、日本付近への寒気の南下が促された可能性があります。この亜熱帯ジェット気流の蛇行には、インド洋で積雲対流活動が不活発であったことに加え、ラニーニャ現象の発生に伴って、フィリピンとその周辺で積雲対流活動が活発であったことが影響した可能性が考えられます。

- 最近の大雪・低温年との比較

このような大気の流れの特徴は、北日本から西日本にかけての日本海側を中心にしばしば大雪となり、東北地方や北陸地方を中心に記録的な降雪量となるとともに全国的に低温となった令和2年12月中旬以降の状況に類似しています。

- 日本海の海面水温の影響

寒気の流入に伴ってもたらされる日本海側の降雪は、一般に日本海の海面水温と上空の気温差が大きいほど多くなりやすいことが知られています。12月は冬の前半で平年でも海面水温が下がり切っていない時期であることに加えて、12月下旬の初めは平年の同じ時期よりも日本海北部を中心に海面水温が1℃以上高かったことも、降雪量の増加に影響した可能性があります。

(この原稿の作成 観測予報管理官 安藤)



国土交通省 気象庁 青森地方気象台
〒030-0966 青森市花園一丁目17番19号
電話017-741-7411



気象庁ホームページ: <https://www.jma.go.jp/jma/index.html>
青森地方気象台ホームページ: <https://www.data.jma.go.jp/aomori/>